

# 高齢患者の薬剤理解に影響する要因の分析

岸田研作、後藤励、谷垣静子

【目的】医療者の対応によって薬剤コンプライアンスが向上するかどうかは、患者自身の効能や副作用などの医療情報の理解度に大きく左右される。本稿の目的は、高齢者の薬剤理解に影響する要因を明らかにすることである。

【方法】対象は、調査会社とモニター契約を結んだ世帯に属する70歳以上の高齢者のうち、医療機関に通院中で薬が出されている者である。分析では、服用者が現在服用している個々の薬について、副作用、効能、名前が分かるか否かを、それぞれプロビット・モデルを用いて解析した。認知症である可能性を排除するため要介護者は分析対象から排除した。

【結果】副作用、効能、名前が分かる確率を減少させる要因は、服用している薬の数が多いいこと、年齢が高いこと、世帯人員3人以上、自己負担2割、であった。償還や所得税還付の制度を知っていることは、副作用、効能、名前が分かる確率を増加させた。

【考察】高齢者は複数の疾病にかかり、病歴も長いなどの理由で、出される薬が多くなることば珍しくない。しかし、服用している薬の数が多いいこと、年齢が高いことは、薬剤理解を低下させた。したがって、高齢者に対しては、定期的に治療効果などを考慮して処方薬の整理を行うことが必要である。